

平成23年度
事業報告書



特定非営利活動法人

琉米歴史研究会

平成24年 月 日

沖縄県知事
仲井間 弘多 様

特定非営利活動法人
琉米歴史研究会
理事長 喜舎場 静 夫



特定非営利活動促進法第29条に基づく平成23年度の事業報告書の
提出について

標記の件について、下記のとおり下記の関係書類を添付し提出致します。

記

「提出書類」

ページ

1. 平成23年度事業報告書..... 1 ~ 5
2. 財産目録..... 6
3. 貸借対照表..... 7
4. 収支計算書..... 8
5. その他事業財産目録..... 9
6. その他事業貸借対照表.....10
7. その他事業収支計算書.....11
8. 前年度において役員であったことのある者全員の名簿.....12
9. 社員のうち10名以上の名簿.....13
10. 会員名簿.....14 ~ 15

平成23年度 事業報告書

平成23年度事業の経過報告を次のとおり報告致します。

1 事業の成果

(1) 終戦直後の沖縄の写真の収集

米国内で当会の呼びかけでアリゾナ州在住のドン・キュウソン氏から1200点余の写真を収集することができた。写真は、1945年から1957年にかけて米軍関係者が県内各地で撮影している物で復興に向け頑張っている庶民の情景が多い。

やんばるに残る茅葺き家の集落、名護の様子、戦火を逃れた山原船、その他各地の風景等が写されている物もある。

尚、この多くの写真を含む多くの写真を「南城氏誕生5周年」を記念し、南城市知念で6月17日から写真展を開催した。

この件に関しては2011年5月12日の沖縄タイムス、5月13日の琉球新報に関連記事が掲載されている。

(2) 沖縄戦時遺品の返還

モンタナ州在住の元米兵のドウレル・ギブズ氏が1945年に戦地から持ち帰った財布を持ち主に返したい旨の連絡が当会にあり、平成23年5月27日、理事長を介し持ち主の岩手県、北条啓二郎氏〔故人〕の二女菊池ノリ子さん(69)に返還した。

ギブズ氏は2等兵として沖縄に上陸、南部の与座岳付近で日本兵の遺体から財布を持ち帰ったと言う。同氏は何十年も持ち主に返したい気持ちだったとのことで直接来日し返還が実現し「ようやく落ち着ける気持ちがある。」と言葉を詰まらせた。

尚、同伴については、2011年5月28日付琉球新報、2011年6月1日付岩手日報に掲載済み。

(3) 複製写真の寄贈

1950年代と見られる大宜味村の風景を元米兵が撮影した写真や絵ハガキ等の複製10枚を大宜味村役場で島袋村長に寄贈した。

島袋村長は「懐かしいだけでなく、終戦直後の生活の様子が伺え、感動した。」と語り今後、村で活用して行くとした。

関連記事が2011年6月15日付琉球新報に掲載済み。

(4) 沖縄戦の米軍人の戦利品200点の遺品返還

沖縄戦の資料収集、流出文化財等の収集返還に取り組む当会に米国コロラド州在住のダンカー道子氏から200点の資料が封書で返還された。同資料は友人の父が沖縄戦で持ち帰った物で、持ち主に返したいとのことで今回の返還となった。

戦利品には記名入りの物もあり、一部は持ち主に返還され感慨深い表情だった。

手紙等は、読谷村周辺の住所宛の物があり、当会は一端読谷町役場に預け関係者を探したい。

関連記事が2011年9月3日、同9月27日付沖縄タイムスに掲載済み。

(5) 英語版絵本の寄贈

昨年度に引き続き在沖米軍婦人クラブで構成する福祉団体(ACGO)から当会へ「本を寄贈したい」との依頼があり、今回は南城市立大里南小学校に約350冊の英語版の絵本を寄贈した。当会は、英語版の絵本に接することにより、「子ども達が国際的な考え方に触れるきっかけになって欲しい」との趣旨で同クラブと5カ年前から「子どもの書籍寄贈運動」を展開している。尚、寄贈は2012年4月に行われ、贈呈式で児童を代表して松長加奈絵さん(5年)は「本をとおして沢山の文化や言葉を学びたい」と述べた。

(6) イングリッシュ キャンプ プログラム (English Camp Program)

昨年度に引き続き本年度も米国ミネソタ州在、セント・ジョーンズ大学からESL〔第二外国語〕の教授を招聘し、沖縄県内市町村海外短期留学実行委員会(南城市、北中城村、中城村、大宜味村、及び伊平屋村)で構成する小学生、中学生、高校生を対象に夏休みの期間中の10日間を名護市内の宿泊施設でイングリッシュ キャンプを実施した。

キャンプは、基本的に午前中が授業で、午後からは屋内外での活動、休日には近郊での英語教育も取り入れている。また、午後からの活動では海外短期留学実行委員会内の中学校の英語指導助手(ALT)の協力も得ている。

この事業をとおして、英語に親しみ、より一層興味を示し、国際的にも活躍する人材育成の一助となることを願い実施している。

(7) 夏休み中学生・高校生海外短期留学プログラム (Summer English Program)

今年度も昨年度に引き続き沖縄県内海外短期留学実行委員会で構成する中学生・高校生を対象に米国ミネソタ州在セントジョーンズ大学で夏休み中の3週間の海外短期留学を実施した。

出発は当地の気象条件や費用の問題で夏休みに入る1週間早めに行っているが、学校はその間は出席扱いとなっている。

宿泊及び滞在先は現地の大学が休みに入るため、その寮を利用している。

平日の午前中は授業で、ESL専門教授によって行われている。午後からは屋内及び屋外活動が行われ生徒5～6名に1人の現地大学生の助手が面倒を見ている。助手は宿題の手助けや普段の生活の面倒も見ている。

また、期間中大学関係者宅にて2泊3日のホームステイも取り入れられ、基本的に生徒2人1組にて受け入れられている。

この事業の目的は、実際に米国で英語を学ぶことで言葉と文化を学ぶ事になり、より一層英語に興味を持ち、更に自己研鑽に努め、国際的にも活躍する人材育成に寄与する一助になるとのことで実施している。

(8) 南城市誕生5周年記念写真展「入場無料」

南城市誕生5周年を記念し、南城市知念体育館にて平成23年6月17日から23日まで「鉄の暴風から笑顔が戻った日in南城市」と銘打って約1,200点余の写真を公開し、写真展を行った。

写真は終戦直後の焼け野が原から復興へ頑張る庶民の生活の様子や各地の風景等があった。
また、国道58号線が建設される以前の美しい海が広がる西海岸の様子、名護市の風景等の
写真の数々があった。

尚、ビデオ約8本の未公開写真等の物も多数あり、「マーヤガ、ターヤガ」のテーマで日替わりで
登場する各地の有識者と、写真を見ながらみんなで語りましょう！」とのコーナーもあり初めて見る
映像に参観者は、当時の様子を懐かしんでいた。
期間中、小学生～高校生や一般観覧者や各種団体や、核種施設からの参観者も多数あった。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に関する事業

事業名	事業内容	事業日時	実施場所	従事人数	授業対象	支出額 (千円)
流出文化財や 文献等の返還 作業に関する 事業	終戦直後の沖縄の 写真の収集	平3年 5月	沖縄	3人	県民	480
	沖縄戦時遺品の返還	平23年 5月	沖縄	3人	県民 岩手県民	
	複製写真の寄贈	平23年 6月	沖縄	2人	県民	
	沖縄戦の米軍人の 戦利品200点の 遺品返還	平23年 9月	沖縄	3人	県民	
教育プログラ ムに関する 事業	英語版絵本の寄贈 (南城市立大里小学校)	平23年 4月	沖縄	5名	県民	23,442
	イングリッシュ キャンプ プログラム English Camp Program	平23年 7月	沖縄	10人	県民	
	夏休み中学生・高校生 海外短期留学 プログラム	平23年 7月	米国	8人	県民	
その他事業	南城市誕生5周年記念 写真展	平23年 6月	沖縄	6人	県民	650

(2)その他事業会計に関する事業

事業名	事業内容	事業日時	実施場所	従事人数	授業対象	支出額 (千円)
バザーの開催	歴史的資料に基づく レプリカ、写真、壁掛け その他物品等の 販売(バザー)の実施	平23年 5, 7, 9, 10, 12 月	沖縄	10人	県民	905